

◎自由発表（第2会場）

【演題等】新任管理職研修「学校における危機管理」（いじめ・保護者対応）
～管理職・指導主事に向けた通信「日日是好日」より～

【講演・発表者】京都市教育委員会指導部生徒指導課 首席指導主事 水野 博之

・発表概要

新任管理職研修での講演の内容は、いじめ対応における危機管理として、法的な理解、早期対応・組織対応の重要性について話している。また、学校の危機管理に関して、管理職としての心得や、風通しの良い職場づくりについて問題を提起している。後半は具体的な事例演習として、いじめや保護者対応などの演習を行い参加した新任管理職が、グループ内で実践的に討議している。

事前に配布した管理職の危機管理「日日是好日」を題材に、各校のリスクマネジメントについて意見交換を行っている。「他校で起こったことは自校でも起こる」ことを念頭に、いじめ編では、実際に対応した事例から、長期化しやすいキーワードや重大事態となった事案をわかりやすく紹介している。これまでの「実践知」を、多くの管理職や指導主事などに伝承していくことで、子どもの命を守り、安心・安全な学校づくりの一助にしたいと考えている。



・発表要旨

ここ数年で多くの経験豊富な管理職が退職し、学校の危機管理として、学校力の低下が懸念される。また、学校現場では、いじめや不登校児童生徒の対応等が長期化し、教職員が疲弊することとなる事案等が多く発生している。また、いじめ重大事態となっているケースに教育行政も苦慮しているところである。

当研修では具体的な事例を参考にした演習でグループ協議を行い、学校の諸問題解決に向けた管理職の危機管理意識の向上をめざしている。また、事前に全市の具体的な事例を参考に、管理職の危機管理として「日日是好日」という通信を発信してきた。これまでの「実践知」を、多くの管理職や指導主事などに伝承していくことで、子どもの命を守り、安心・安全な学校づくりの一助にしたいと考えている。

(1) いじめ対応について

「いじめ見逃し0」、「最近の傾向」、「いじめ対応で大切なこと」、「対応に困るケース」、「社会通念上のいじめと法的ないじめ」、「いじめではないか？という視点と心構え」、「管理職として求められること」

(2) 通信「日日是好日」

「いじめ」、「どうする？（演習協議）」、「先輩管理職語録」

(3) 管理職の危機管理

「適切に判断する」「方針がぶれない」「最後に責任をとる」

このように「学校における危機管理」について発信していくことが、安心・安全な学校づくりにつながる。本市の「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」という教育理念のもと、教職員が児童生徒理解に努め、「発達支持的生徒指導」を推進し、「見逃しのない観察」・「手遅れのない対応」・「心の通った指導」を推進するため、これまでの「実践知」を次第送りにしていく必要がある。

・質疑応答の概要

Q：経験の浅い管理職が増えている。その中で率直に思っておられること、アドバイスを送るとしたら、どんな言葉をかけられるか？

A：教職員を大切にしてほしい。そうすれば、教職員も子どもを大切にすることにつながる。また来客対応を丁寧にしてほしい。人を大切にされているかどうか的大事。その窓口が教頭であり、職員室の雰囲気作りが大切である。

校長、教頭が仲良くしてほしい。

校長、教頭、教職員の健康管理が大切である。職場で、誰かが休むと現場は疲弊する。子どもとどう関わっていくか、子ども主体の取組が、発達支持的生徒指導につながっていく。

。